

被災者のために 方面隊からも約4200名の隊員が派遣



海上自衛隊護衛艦「いずも」へ車両を積載

各支援隊は、現地到着後、速やかに各地域に展開し、現地のニーズに基づき、被災者のためにそれぞれの任務を遂行中である。

北部方面隊は、4月14日に引続き、15日に発生した、熊本地方を震源とする平成28年熊本地震への対処のため、4月16日以降、北部方面支援隊、北部方面航空支援隊、北部方面輸送隊をそれぞれ編成し、方面総監部、方面隊隷下の各師団、各旅団及び直轄部隊から約4200名の部隊・隊員が西部方面区へ向け出発し、現地において、活動を開始した。

16日、北部方面ヘリコプター隊副隊長を指揮官として編成した北部方面航空支援隊は第11飛行隊の配属を受け、UH-1ヘリコプター6機をもって、八尾駐屯地及び丘陵駐屯地から出発し、現地での航空支援任務を、同日、16日、北部方面後方支援隊北部方面輸送隊第305輸送中隊長を指揮官として編成した北部方面輸送支援隊は、特大型車等の装備をもって、

真駒内駐屯地を出発、小樽港から舞鶴港を経由し、西部方面区へ到着し、現地における輸送支援任務を遂行中である。

また、北部方面支援隊は、総監部幕僚副長(防衛) 富樫将補を支援隊長として、方面総監部、北部方面通信群、第1電子隊を主体とした支援隊本部、第2師団、第7師団、第5旅団、第11旅団、第1特科団、第1高射特科団、北部方面後方支援隊、北部方面対舟艇対戦車隊、北部方面会計隊、北部方面衛生隊、北部方面情報隊、北海道補給処の部隊等を主体とした生活支援隊、北部方面施設隊及び第2施設大隊を主体とした施設支援隊を所要の装備をもって編成した。北部方面支援隊は、17日以降、それぞれの駐屯地を出発し、海上自衛隊の護衛艦、航空自衛隊の輸送機、米軍の輸送機、民間のフェリー及び陸路により、約2000kmの長距離を機動し、西部方面区へ進出した。

平成28年熊本地震



第727号
平成28年4月22日

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面総監部広報室

総監要望事項
即 応
錬 磨
信 頼

各部隊が九州に向け前進



真駒内駐屯地



帯広駐屯地



東千歳駐屯地



旭川駐屯地



鹿追駐屯地



釧路駐屯地



美幌駐屯地



名寄駐屯地



札幌駐屯地



島松駐屯地



南恵庭駐屯地



北千歳駐屯地



小樽港 民間船へ乗船 (北部方面輸送隊)



航空自衛隊 米軍機へ車両を積載



航空自衛隊 千歳基地において車両を積載

北部方面総監隷下部隊を視察

現況の把握と企図の徹底を図る

北部方面総監岡部陸将は、3月29日、美幌駐屯地に対する視察を行った。ともに、企図の徹底を図る。



儀じょう隊を巡閲

儀じょう隊を巡閲
儀じょう隊を巡閲した。総監は、美幌駐屯地司令以下の出迎えを受けた後、道東地区の防衛・警備、災害派遣を担う駐屯地としての態勢、現況について報告を受けた。隊内巡視では、勤務隊舎、生活隊舎、基本射撃場



勤務隊舎の巡視

勤務隊舎の巡視
勤務隊舎の現況を確認した。特に、生活隊舎の視察では、整列する全隊員に激励の言葉をかけ「出身地はどこか」「職務は何か」等の質問をし、質問された隊員は元氣溼刺に答えていた。また、全隊員に対する訓示では、昨今の国内外情勢、防衛省・自衛隊に対する国民の期待を踏まえ、北部方面隊のなすべきことを述べ、「即応」「錬磨」「信頼」である要事項を徹底するとともに、駐屯地一体となった防衛・警備や災害発生時の対処や各部隊の職種、任務に応じた練度の向上を任務の完遂を強調した。



総監への状況報告



装備品の現状確認

装備品の現状確認
装備品の現状を確認した。特に、生活隊舎の視察では、整列する全隊員に激励の言葉をかけ「出身地はどこか」「職務は何か」等の質問をし、質問された隊員は元氣溼刺に答えていた。また、全隊員に対する訓示では、昨今の国内外情勢、防衛省・自衛隊に対する国民の期待を踏まえ、北部方面隊のなすべきことを述べ、「即応」「錬磨」「信頼」である要事項を徹底するとともに、駐屯地一体となった防衛・警備や災害発生時の対処や各部隊の職種、任務に応じた練度の向上を任務の完遂を強調した。

方面隊に新たな仲間が集う

一般曹候補生・自衛官候補生、道内各部隊で入隊式



第120教育大隊：自衛官候補生課程（女子）（真駒内駐屯地）



第120教育大隊：第9期曹候補生課程（真駒内駐屯地）

北部方面隊は、4月3日、9日及び10日に、新隊員の教育を担当する方面隊内の各部隊に入隊した第9期一般曹候補生及び平成28年度自衛官候補生の入隊式を行った。入隊式のおよそ1週間前に着隊した隊員達は、教官等の指導の下、敬礼や行進等の基本教練等を体得し、この入隊式に臨んだ。式では家族や知人、協力団体等の来賓及び各地方協力本部の関係者が見守る中、初々しくも堂々たる行進や基本教練を披露するとともに、同期一丸となり、声高らかに宣誓し、陸上自衛官としての一歩をここに標した。また、祝賀会食等においては、各部隊ごと趣向を凝らした太鼓演奏や音楽隊による演奏を行い、新隊員を歓迎した。



第6普通科連隊：美幌駐屯地



第26普通科連隊：留萌駐屯地



第10普通科連隊：滝川駐屯地



第7特科連隊：東千歳駐屯地



第13施設隊：幌別駐屯地



第1特科群：北千歳駐屯地

今年度入隊した新隊員は、第2師団管内に約180名、第7師団管内に約240名、第5旅団管内に約110名、第11旅団管内に約90名、方面混成団第120教育大隊に男女合わせ約450名であり、この入隊行事を皮切りに、本格的な教育が開始され約3カ月間の教育で陸上自衛官としての基礎を修得し、方面隊内のそれぞれの部隊に配置され各部隊において更に3カ月間の特技教育を受ける。

総監部着任将官紹介

総監部幕僚副長



とがし ゆういち
陸将補 富樫 勇一

幹候 89 期 (防大 33 期)

山形県出身

平成 23 年 8 月 第 14 普通科連隊長兼金沢駐屯地司令

平成 24 年 7 月 陸上幕僚監部人事課長

平成 26 年 8 月 富士学校普通科部長

平成 28 年 3 月 現職

日米相互信頼の更なる深化 米アラスカ軍司令官来道

北部方面隊は、4月1日、米アラスカ陸軍司令官ブライアン・オーウェンス陸軍少将の来訪を受けた。

今回の北部方面隊訪問への目的は、北海道での米アラスカ陸軍との共同訓練、冬季戦技に係る教官交流等に関する意見交換のためであり、北部方面隊の概況の説明を受け、方面隊の役割等を確認するとともに、意見交換を行った。

第11旅団への訪問では、旅団長を表敬し、意見交換を行った後、冬季の装備品を含む、第11旅団の主力装備品の展示説明を受け、北海道に駐屯する第一線部隊の現状を確認した。

間では、隊長を表敬し、教官交流等に関する意見交換を行った後、冬季遊撃隊員の装備や山岳救助資材等、冬季戦技等の専門的な見地での装備品を確認した。

今回のオーウェンス司令官の訪問により、北部方面隊の冬季における高い行動能力とその精強性を肌で感じてもらうことにも、日米相互の連携の重要性と強い絆を更に深化させた。



総監表敬



記念撮影



方面隊による概況説明



ギフト交換



冬季戦技教育隊の装備品の研修



第11旅団による装備品展示

北海道の歴史的イベントに花を添える 北海道新幹線開業に伴う関連行事で音楽演奏



第11音楽隊による演奏

北部方面隊は、3月26日及び27日に函館市、北斗市及び木古内町で行われた北海道新幹線開業に伴う関連行事において演奏支援等を行った。

26日の北斗市では、第11旅団第11音楽隊及び第13施設隊によって編成された北海道自衛太鼓が、27日の木古内町では、第11音楽隊がそれぞれステージ演奏を行い集まった多くの観衆を魅了した。

また、方面総監は、26日北海道主催で、函館市内のホテルで行われた開業行事祝賀会への招待を受け、同祝賀会に参加し、多数の出席者とともに、その開業を祝った。

さらに、26日午後、JR函館駅上空を中心に航空自衛隊松島基地所属のブルーインパルスによる展示飛行が行われ、集まった観衆は、その華麗なアクロバット飛行に感嘆の声を上げていた。



第13施設隊(北海道自衛太鼓)による力強い太鼓演奏



ブルーインパルスの飛行により会場に花を添えた

函館市内のホテルで行われた開業行事祝賀会

大規模災害に備えて 北海道と陸上自衛隊北部方面隊との 連携・協力に関する覚書締結式

北部方面隊は、3月17日、北海道庁において、北海道と大規模災害に備えた連携・協力に関する覚書を締結した。

道と北部方面隊の間には、平成24年に地震や津波で被害を受けた地域に、自衛隊を迅速に派遣するための「大規模災害時の連携に係わる協定書」を締結している。

今回の覚書締結式では、平素からの訓練や道との橋知事は「自衛隊の豊富な連携強化に力点を置き、陸上のシミュレーションシステムを道の防災訓練で活用し、道の防災研修に自衛隊を講師として派遣し、自衛隊の災害訓練で道職員の研修を受け入れる」などの内容をまとめた覚書に、高橋は「道と北部方面隊の間に、引き続く道民の皆様の安心・安全の確保に大いに資するよう努めて参る所存です」と述べた。

本締結式を機に方面隊は、道との更なる防災訓練の連携・強化を深めていく。

な災害対応のノウハウを生かした支援に期待している」と話し、総監は「北海道との更なる連携強化を図るとともに、引き続き道民の皆様の安心・安全の確保に大いに資するよう努めて参る所存です」と述べた。

署名が終わり固い握手が交わされた



麻薬取締官による薬物防犯講話

北部方面警務隊は平成28年3月28日、札幌駐屯地体育館を会場に厚生労働省北海道厚生局麻薬取締部所属の麻薬取締官による薬物防犯講話を実施した。

本講話は、違法薬物に係る事案が世間を騒がせている昨今の情勢を受け、北部方面隊区におけるこの種事案の絶無を図るため、北部方面警務隊(隊長 大西1佐)が札幌駐屯地(駐屯地司令 飯盛将補)の協力を得て、厚生労働省北海道厚生局麻薬取締部に講師を派遣を依頼して実施したもので、札幌駐屯地所在の多数の部隊長(札幌駐屯地業務隊長、方面通信隊長、方面会計隊長、方面警務隊長、第101通信直接支援隊長、総監部付隊長)ほか、約430名に及ぶ駐屯地所在の隊員が聴講した。

講話は、厚生労働省北海道厚生局麻薬取締部に所属し、事件扱い件数1000件以上の経験を持つベテランの麻薬取締官で、当初、麻薬取締官の立場・権限・職務・組織等を簡単に説明された後、「薬物犯罪の現状について」と題して講話に入り、覚せい剤、大麻、MDMA、危険ドラッグ等の薬物を「刺激系、麻痺系、幻覚系」に分けて、その特性や危険性を分かりやすく解説しつつ、違法薬物乱用者の身体・住居等の異様な状態の写真やVTRを活用した衝撃的な構成で終始聴講した隊員を引き付ける内容であった。

特に、「危険ドラッグ」といわれる違法薬物に起因する事故事例等の具体的な説明には多くの隊員が食い入るように画面に見入っている状況が見受けられた。

本講話により、漠然と薬物の危険性や違法性を認識していた隊員も、明確に違法薬物摂取による体への影響、依存性、凶悪事件を惹起させる危険性を認識し、精強な部隊(駐屯地)の一員として、あらためて規律心を涵養し、「違法薬物は買わない、使わない、関わらない」の意識を再認識した機会となった。



札幌駐屯地で行われた薬物防犯講話

講話は「可能性への挑戦」の演題で、大相撲力士になることを志してから小柄な体格を克服して新弟子検査に合格するまでの苦労や幕内力士として活躍中も怪我を克服して番付を維持してきた苦闘など、チャレンジ精神について隊員の隊務の資となった。

講話を聴講した隊員は終始真剣な眼差しで講話に聞き入り、「著名な講師の講話を聞くことができてよい経験

元大相撲力士 舞の海秀平氏による講話

北部方面総監部は、平成28年3月31日、部外講師「元大相撲力士 舞の海秀平氏」を招き北部方面隊に勤務する全隊員を対象とし、聴講者約950名に及ぶ部外講話を真駒内駐屯地東体育館において実施した。

講話は「可能性への挑戦」の演題で、大相撲力士になることを志してから小柄な体格を克服して新弟子検査に合格するまでの苦労や幕内力士として活躍中も怪我を克服して番付を維持してきた苦闘など、チャレンジ精神について隊員の隊務の資となった。

講話を聴講した隊員は終始真剣な眼差しで講話に聞き入り、「著名な講師の講話を聞くことができてよい経験

可能性への挑戦



舞の海 秀平氏の講話に聞き入る参加者

講話を聴講した隊員は終始真剣な眼差しで講話に聞き入り、「著名な講師の講話を聞くことができてよい経験

になった」「困難を克服して夢を実現したチャレンジ精神について感動した」などの感想を語った。



講話参加者全員との記念撮影

自衛官募集ホームページ Japan Self Defense Forces 0120-063792

アニメでわかる! 自衛隊 自衛官物語

応募ナビ

インターネット応募はこちらから!

自衛官募集HPにアニメで募集種目を紹介する「自衛官物語」を掲載



新しく4月11日より、自衛官募集HPに、幹部候補生、一般曹候補生、航空学生、自衛官候補生の4種目を目指す主人公の入隊決意～入隊～退官までの人生を主人公の成長とともに追っていく物語を掲載します。まずはご自身で確認していただき、いろいろなところで話題にしていれば幸いです。

自衛官候補生(男子)
受付期間: 年間を通じて募集

～採用試験日のご案内～

- 札幌地方協力本部 6月10日・11日・12日 ☎ 011-631-5472
 - 旭川地方協力本部 5月27日・28日 6月24日・25日 ☎ 0166-51-6055
 - 函館地方協力本部 6月18日・19日・20日 ☎ 0138-53-6241
 - 帯広地方協力本部 5月21日 ☎ 0155-23-5882
- 詳しくは各地方協力本部までお問い合わせください。

北部方面総監部 緊急! 縁故募集求む!

優秀な人材は隊員の情報に託されています。

貴方の身近な兄弟・親戚・友人・後輩等の縁故情報を 関係上司に 今すぐ!!

問合せ先(専用線)

- 札幌地方協力本部 8-11-4502(募集課)
- 旭川地方協力本部 8-16-3494(募集課)
- 函館地方協力本部 8-124-405(募集課)
- 帯広地方協力本部 8-18-2704(募集課)

編集後記

4月14日に発生した地震に引き続き、15日に発生した平成28年熊本地震において、被害に遭われた皆様に心より、お見舞い申し上げます。また、今もなお、余震が続く中、不安な毎日を送られていらっしゃる、心をお察し申し上げます。◆自衛隊は、西部方面総監を指揮官とする統合戦務部隊を編成し、陸・海・空自衛隊が力を合わせ、震災に対処しております。派遣された部隊は、被災者の救出、行方不明者の捜索、生活支援等、それぞれの地において全力で任務を遂行中であります。◆北部方面隊においても、地震発生後、速やかに態勢を整え、関係所掌との調整を行い、北部方面支援隊等を編成し、約4200名の部隊・隊員が現地において活動を行っております。北部方面隊は、5年前の東日本大震災活動時のノウハウや数々の震災対処訓練の成果を活かし、その対処能力を向上させてまいりました。現地に於いて活動する北部方面隊の部隊・隊員が被災者の目線に立ち、現地のニーズに沿った支援等を行うものと信じております。◆我々は、現地において活動する部隊・隊員はもとより、北海道において震災対処や防衛・警備に従事する部隊・隊員が、一丸となってこの任務を完遂します。我々の活動が被災された皆様の少しでもお役に立ち、そして1日も早く皆様が普段の生活に戻られることをご祈念申し上げます。